医療人GPにおける手話講習会風

キャシパス紹介

北海道薬科大学

北海道薬科大学(北海道小樽市、大和田榮治学長)は1974年の開学以来、約5400人の薬剤師を輩出してきた実績を持つ。この数字は道内最多であり、北海道薬剤師会会長をはじめとして、多くの卒業生が地域の医療現場やヘルスケアを支えている。2006年には新たに臨床講義棟も完成し、「医療現場で役に立つ薬剤師育成」に向けて、より現場に近い薬学教育を実施している。

臨床講義棟が完成



キャンパス全景

同学は札幌からほど近い小樽市に位置し、 キャンパスは日本海と石狩平野を望む絶景に 恵まれている。日本の薬学教育がまだ基礎薬 学中心だった90年代初めから、医療現場に目 を向けた薬剤師育成を教育目標に掲げ、以来、 実践に即した教育を展開してきた。

06年に新設された「臨床講義棟」は、地上 4階地下1階で、模擬薬局や模擬注射剤配合 室、模擬製剤室など多くの実習施設を揃えて いる。特に、OTC販売のための実習室が設 けられているのが大きな特徴だ。実習室には OTC薬やレジが配列され、実際の薬局やド ラッグストアを再現している。

同学では数年前から、地元薬剤師会との協力の下、現場の開局薬剤師を講師に招き学生の指導に当たっている。現役薬剤師による生



臨床講義棟でのOTC販売実習



大和田学長

矢

関

きたアドバイ スをもらい、

聞

さらに、地域医療や社会人教育にも力を入

より現場に即した教育を展開している。

れている。それを表しているのが、各種文部科学省教育プログラムへの参画だ。06年度は「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム(医療人GP)」、07年度は「薬学教育6年制導入に伴う薬剤師学び直しのための教育支援プログラム(社会人の学び直し)」と、文科省の教育プログラムに2年連続で選定された。

06年度医療人GPのテーマは、「臨床能力を育む地域体験型学習とその支援」だ。内容は、北海道の広大な地域特性を理解し、地域医療に貢献できる薬剤師を養成するため

に、地域の医療機関と連携した体験型学習を、1~3年次に継続して行うというもの。具体的には道内全域の病院、薬局で早期体験実習を行うほか、介護施設などで生活支援や医療活動に参加する。こうした体験を通して、地域医療を遺疎地医療を理解する学生を養成し、医療人としての倫理観を養成すると共に、患者に共感できる薬剤師の育成を目指している。

一方で社会人の学び直しは、文 科省が再チャレンジを可能とする



「現場で役に立つ薬剤師」育成へ



海の見える談話室で談笑する学生たち

社会の実現を目的とし、大学、短期大学、高 等専門学校に対して、社会人の学び直しに資 する学習プログラムを募集していたもの。

同学のプログラムでは、4年制薬学教育を 履修した薬剤師に対して、新しい薬物治療を 中心とした学習支援プログラムを提供すると 共に、薬剤師業務に関連する様々な技能・技 術習得のサポートが予定されている。子育て などで長期離職していた人や、6年制薬学教 育課程に相当する能力を身につけたい人が主 な対象だ。

プログラムは「講義コース」と「技能コース」に分かれている。講義コースでは専門分野の医師による病態・診断解説と薬剤師による薬物治療解説が行われる。技能コースでは、薬剤師職能に必要な基本技能を実技あるいは演習によって習得する。実施項目は▽調剤▽栄養輸液管理▽薬歴管理▽臨床コミュニケーション▽医薬品情報の収集と活用▽TDM──となっている。

こうした文科省プログラムへの積極的参画 をはじめとして、同学では薬剤師の教育に関 して、生涯にわたり強力にサポートしていく 方針だ。

